

北海道大学附属図書館北図書館・大学文書館共催パネル展示

台湾に渡った北大卒業生たち
Ⅱ 生産・技術と植物学・農学



パッションフルーツと綿吹介殻虫

(芳賀鉄五郎『台湾の熱帯果樹 第四巻 果物時計』1919年、素木得一『綿吹介殻虫調査報告』1911年を合成)

期間： 2012年5月1日(火)～2012年8月31日(金)

場所： 北図書館1階(札幌市北区北17条西8丁目)

北海道大学附属図書館北図書館・大学文書館共催パネル展示

「台湾に渡った北大卒業生たち II. 生産・技術と植物学・農学」を開催

5月1日(火)から、北図書館1階において、附属図書館北図書館・大学文書館共催パネル展示「台湾に渡った北大卒業生たち II. 生産・技術と植物学・農学」を開催しています。

この展示は、昨年、附属図書館本館4階において開催した同展示（資料陳列展示）を、初年次学生の皆様にもご覧いただけるよう、会場を北図書館1階に移動して、パネル展示として再構成したものです。今回は第Ⅱ期として「生産・技術と植物学・農学」をテーマに、台湾に渡った北大卒業生たちの人物と活動を紹介し、彼らの担った歴史的役割の多面性を考えます。

1900年代に入ると、台湾総督府は、農事試験場・糖業試験場・園芸試験場・種畜場など農業振興に関わる調査・研究を行なう研究施設を設置し、それぞれの分野の技師に北大出身者を重用しました。例えば、甘蔗(サトウキビ)品種改良の金子昌太郎(札幌農学校第21期生)、イネ品種改良の磯永吉(1911年東北帝国大学農科大学卒業)、果樹栽培の芳賀鋤五郎(札幌農学校第20期生)、畜産の長嶺林三郎(同第18期生)です。彼らは、北大で学んだ専門知識を活かし、それぞれの農産物に関する外国種移入や品種の交配・改良・開発などの研究・調査を進め、生産性の向上を図りました。

一方、生産性向上を阻害する農産物の虫害・病害対策として、台湾総督府は昆虫学や植物病理学を専門とする技手・技師を配置しました。昆虫学の石田昌人(1897年農芸伝習科卒業)・素木得一(札幌農学校第23期生)、植物病理学の川上瀧彌(同第18期生)・三宅勉(同第21期生)らです。

国立台湾博物館の基礎を築いた川上瀧彌や、「蓬莱米」開発の磯永吉、台湾の国蝶「フトオアゲハ」を発見した素木得一は、現在も台湾の人々にその業績を高く評価されています。ただし、これらの業績も、日本の台湾植民地統治の文脈の中で行なわれたものです。本企画展示を通じ、北海道大学と台湾の歴史的関係の多面性、その複雑さを読み取っていただければと思います。

展 示 名： 「台湾に渡った北大卒業生たち II. 生産・技術と植物学・農学」

期 間： 2012年5月1日(火) ～ 2012年8月31日(金)

場 所： 北海道大学附属図書館北図書館1階(札幌市北区北17条西8丁目)

共 催： 北海道大学附属図書館北図書館・北海道大学大学文書館

【お問い合わせ先】

北海道大学附属図書館 北図書館

<住所> 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

<電話> 011-706-5575

<メールアドレス> kitasv@lib.hokudai.ac.jp

<URL> <http://www.lib.hokudai.ac.jp/>

北海道大学大学文書館

<住所> 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

<電話・ファックス> 011-706-2395

<メールアドレス> archives@general.hokudai.ac.jp

<URL> <http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>